

平成25年度決算に基づく 健全化判断比率等について

問い合わせ 財政課 04-2998-9030



「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、
平成25年度の決算についての
健全化判断比率及び資金不足比率を公表します。

～ 算定結果 ～

早期健全化基準からみて、健全な財政状況です。

前回と比較して、
実質公債費比率は2.0ポイント、
将来負担比率は0.2ポイント減少しました。

早期健全化 基準

実質赤字比率：11.25%
連結実質赤字比率：16.25%
実質公債費比率：2.5%
将来負担比率：350%

いずれかの基準値以上となった場合、
財政状況の悪化と判断され、
自主的な改善努力が必要となります。

実質公債費比率と 将来負担比率 が減少した理由

実質公債費比率は
市民文化センターや三ヶ島公民館建設に係る
借金の返済が終了したこと等

将来負担比率は
一般会計等の借金の残高が減少したこと等
が要因となっています。

実質赤字比率

赤字はありません！

一般会計と狭山ヶ丘土地区画整理特別会計（これを「一般会計等」といっています。）に生じている赤字が、市の標準財政規模に対してどれくらいの割合を占めているかを表すものです。

黒字の場合は算定されません。

連結実質赤字比率

赤字はありません！

一般会計等に病院や上下水道の企業会計を含めて市の全ての会計に生じている赤字が、市の標準財政規模に対してどのくらいの割合を占めているかを表すものです。

黒字の場合は算定されません。

健全化判断比率の内容

実質公債費比率

3.2%

（前回値 5.2%）

一般会計等が負担する市の借金（これを「市債」といいます。）の返済額と、公営企業や一部事務組合の借金の返済に充てられる一般会計の負担額等が、市の標準財政規模に対してどのくらいの割合を占めているかを表すものです。

過去3年間の比率の平均値で表します。

将来負担比率

7.6%

（前回値 7.8%）

一般会計等が将来負担すべき市債や債務負担行為などの負債が、市の標準財政規模に対してどのくらいの割合を占めているかを表すものです。

一般会計等に加え、公営企業、一部事務組合・広域連合や地方公社等を含めた実質的な負債額を把握するものです。

健全化判断比率の基準になっている 標準財政規模ってなに？

地方公共団体の標準的な状態で通常収入が見込まれる、1年間の一般財源（市が使いみちを自由に決められる収入）の大きさを表します。

平成25年度の所沢市の標準財政規模は、575億4,363万円でした。

標準財政規模を
1年間の給料に置き換えて、
実質公債費比率を見ると…

1年間の給料が
400万円だったら・・・

400万円×3.2% =

12万8,000円を
借金返済に充てていると
いうことだね！



将来負担すべき負債は
何年分の収入額に相当する？

標準財政規模を1年間の収入とすると、
将来負担比率7.6%

= 0.076年分の

負債を抱えていると言えるね。

日数に換算すると

約28日分だから、

1ヶ月の収入にも満たない

大きさなんだね！



資金不足比率の 内容

公営企業の経営健全化に
関する指標

水道事業会計

資金不足なし

下水道事業会計

資金不足なし

病院事業会計

資金不足なし

公営企業の資金不足を、
事業規模である料金収入の規模と比較して
指標化するものが資金不足比率です。

公営企業は、必要な費用を自身の料金収入で
賄う必要があるため、赤字や借金が大きくなって
一般会計に影響を及ぼすことがないよう、
個々の収支をチェックしています。

